VESON NAUTICAL

燃料管理

船舶燃料の購買、追跡および移送に係るプロセス

貴社ビジネスにおける戦略的アセットである燃料

燃料管理とは、あらゆる種類の船舶燃料の購買、追跡及び移送に係る複雑な複数ステークホルダー間のプロセスを指します。常に航海における経済的な成功に不可欠である一方で、その戦略的重要性は近年市場の変動性と共に高まっており、業界全体において持続可能性に重点が置かれるようになりました。

世界の燃料市場の規模は巨大であり、IMOデータベースに提出された燃料油消費データに基づく最新の公表された推定値は、世界規模の船舶燃料市場は2億2,900万MTであり、その約65%はドライバルク船です。燃料管理に係る意思決定には、非常に具体的でかつ細部への注意が必要です。

燃料は運航コストの大部分を占め、運航ルートや貨物に拠りますが運航損益にも影響を与えます。2021年上期のVLSFOの世界平均の燃料油価格は、約US$ 533.00/MTでした。この金額は変動し、同期間でU$115.00/MT以上の変動幅がありました。[2]

では燃料費が航海収支に影響する簡単な例を見てみます。例えばある船舶が例外的に28日間の航海で単価US$533.00/MT のVLSFOを1日あたり30-40MT燃料消費する場合、当該航海は燃料費だけで60万ドルもの運航コストを押し上げます。当然のことながら、燃料費は約40-60%もの運航コストを占めます。[3]

燃料管理のコスト面の影響に加え、注意深く測定し、かつ管理が必要となる持続可能性への影響の側面もあります。環境負荷の削減に対する世界的な関心と相まってIMO2030のような規制により、国際海運の組織に対して燃料管理上の意思決定に 商業的かつ環境的な影響を検討するようになりました。

全ての航海において燃料が必要ですが、あまりに多くの海運組織は燃料管理に対して、前向きに管理、測定やヘッジをし、また報告をする戦略的な機能ではなく、ロジスティック機能として位置づけています。今まさに海運エコシステムは燃料管理を戦略的機能として位置付ける時です。

燃料費は運航コストの
約40-60% **を占めます。**[2]

このまま推移すると2050年までに国際海上取引による二酸化炭素排出量は地球規模排出量の
17% に到達します。[4]

燃料管理に対するより戦略的なアプローチの利用

航海開始前や航海中の取引資産として船舶燃料を捉えるだけでは十分ではありません。今日の組織は、燃料調達や燃料管理に対して計画的かつ意思決定に必要なデータに基づくアプローチが必要となり、これは財務的かつ環境的な分配を生み出します。貴社のビジネスが燃料管理により戦略的なアプローチを利用可能な4つの方法を挙げます。

燃料価格の変動に対する注意深い監視

燃料費は運航コストの大部分を占めるため、燃料価格の変動に対して注意深く監視することが重要となります。絶えず変化する市場において燃料価格は変動するため、燃料調達部門が絶好のタイミングで機会を獲得するためにはリアルタイムのマーケットデータにアクセスできることが重要です。

包括的視野に基づくエクスポージャーに対する時価評価の測定

市場の実勢や航海の状況により海上貨物の輸送速度や輸送に対して課題がある場合に、貴社の燃料管理に係るエクスポージャーの変化を評価するツールを持っていること が必須です。貯蔵燃料が消費によって減少または調達によって増加する場合に、燃料調達部門がエクスポージャーに対して最新の理解を持つことにより必要に応じてヘッジをすることが不可欠です。

リスクに対する計画的なヘッジのための燃料スワップ利用

燃料エクスポージャーに対するヘッジの一つの方法は、現物の燃料価格において予期しない価格変動を打ち消すような燃料スワップの購入であり、これにより貴社の最終利益の正確な予想をもたらします。スワップ購入に係る影響を可視化してこれを実現するためには、貴社には燃料スワップや航海、フリートエクスポージャーや実現損益に対する影響の把握と説明可能なリスク管理モジュールを持つ商業海運ソリューションが必要となります。

燃料管理に係るレポート

燃料価格、本船パフォーマンス、燃料消費、二酸化炭素の排出、常に変化する航海損益において、燃料管理機能は監視及び測定するためのKPIがあります。航海の開始前、航海中そして航海完了後の一貫性のある包括的な分析を通じて、貴社は燃料管理機能や計画的に改善機会を活用することにより、しっかりとした理解を得る事ができます。

Vesonは300社18,000名以上の海運ステークホルダーや多くの燃料管理の関係者に対してサポートを行っており、Veson Nauticalシニアプロダクトマネージャーのジョシュ・ルビーに継続的な進化をしている燃料管理について話を聞きました。

採算性に対する燃料調達の影響を海運ビジネス組織は理解していますか？

はい、理解されています。しかし多くの場合、それは燃料管理プロセスが誤って管理された場合にのみです。例えば、航海が予期せぬ気象状況下で管理されたり、外地の本船に対する誤った理解をユーザーが行った場合に、当初計画にない燃料消費について大きな変化に直面するはずです。燃料管理に係るリスクを考慮せずに事象発生時に対処することによって、性急な決定による財務的な影響が航海完了後で初めて明らかとなります。残念ながら発生時点で状況を修正するために出来ることはほとんどありません。

適切な燃料管理に対してどのようなことが出来るでしょうか？

燃料調達部門、オペレーター、用船者、トレーダーおよびすべてのステークホルダーは、ツールや燃料管理上の交渉や日々の意思決定へ通知が必要な洞察を得ることが非常に重要です。燃料消費、調達そしてエクスポージャー管理の観点から、当たり前のように聞こえますが不連続なワークフローは大きな問題となりえます。これらの関係者が選択すべき最良の手段は正確かつタイムリーな情報や専用のツールを手にすることです。

Veson社ではどのようにクライアントに対して戦略的な燃料管理をサポートしていますか？

弊社は市場実勢の複雑な性質や燃料価格や弊社クライアントの最終利益に重大な影響を理解しており、またエクスポージャーに対するヘッジや目的を持った交渉など全てのステークホルダーが必要とする事を保証するのが我々のビジネスです。契約の締結または燃料スワップの実施の観点から、弊社はマーケット連動データ、標準ワークフロー及び分析ツールなどを提供しており、燃料最適化やCO2レポーティングの分野で市場をリードし、ビジョンを共有できる組織と協業するために幅広い市場のエコシステムを利用しており、Veson Platform Partner Networkの一員でもあるZeroNorthやBunkerMetricはこれらパートナーに該当します。

燃料資産の未来

持続可能性への注目

全ての産業とその業種にわたり持続可能性に注目が集まるにつれて、海運ビジネスと世界的な二酸化炭素排出量の削減への貢献が注目されています。現時点では世界的な二酸化炭素排出量の2-3%程度の責任を負っていますが、ある専門家はこのまま推移すると2050年までに国際海上取引による二酸化炭素排出量は地球規模排出量の17%に到達することを示唆しています。パリ協定から海上輸送は除外されましたが、海運業界のリーダーたちは、持続可能性に向けて前進していくことを自らに責任を負っています。

IMO 2030によりIMOは2030年までに二酸化炭素排出量を40%削減する目標を掲げています。この目標は排出量2008年比から70%削減とするより大きな影響のある取り組みであるIMO 2050の一貫となります。専門家は減速運航、ハイブリッド船舶、LEDライトへの切り替え、他にも船体・船首の流体力学設計など大小さまざまな努力に指摘をしていますが、船舶用燃料が二酸化炭素排出における重大な役割を果たしています。[8]

これらの規制や船舶燃料の未来が変化するより持続可能な海運ビジネスへの要望から出てきています。今日使用される船舶燃料の95%が重油ベースの燃料ですが、船主及びオペレーターは選択肢があります。それらにはバイオ燃料、メタノール、アンモニア、水素、LPGおよびLNGがあります。また今日、これらの選択肢は海上輸送で消費される船舶燃料の5%未満ですが、最近の研究ではこの数値が必ず変化する事を指摘しています。

特にアンモニア、水素、バイオ燃料などの代替燃料の利用は2050年までに30%以上に拡大する事が見込まれています。専門家はアンモニアが最もコストが低く、二酸化炭素を排出しない有効な燃料として評価している為、アンモニアが将来の代替燃料の中で有望な選択肢の一つになっています。[9]

アンモニアかどうかは別として、大事な点はIMOの継続的かつ切迫した二酸化炭素排出量の削減目標が海運業界に燃料消費、調達、この先数十年先の代替燃料の使用に対して判断を迫られているということです。

特にアンモニア、水素、バイオ燃料などの代替燃料の利用は2050年までに30%以上に拡大

燃料の未来の多様性に準備していますか？

以前よりも燃料の選択肢が増え、貴社の海運ビジネスで採用しているソリューションはその多様性を捉え、レポートすることが可能になっているべきです。重量、数量、コスト、消費量は各油種で特性があり、全ての情報はシステムで捉えられ、維持され、そしてリアルタイム及び過去データの分析のために準備されている必要があります。**Veson IMOS Platformは燃料の未来の選択をサポートします。**

Veson社アプローチ

包括的な燃料調達、管理および分割を可能に

Veson IMOS Platform (VIP)により個別モジュールやVIP Bunkering、VIP Trading & Riskモジュールなどを通じて燃料調達やエクスポージャー管理を貴社ビジネスの強みに変革するソリューションにアクセスが可能となります。VIPは次のようなアプローチで燃料管理ワークフローを高次化させます。

運航採算と一体となった燃料管理

個々の意思決定や予期せぬ事象と共にリアルタイムに更新される動的な運航採算と共に、VIPはステークホルダーに対して、常に発生する燃料調達や燃料消費による運航採算への影響に係る完全でかつ準備された洞察を提供します。これらの洞察は完全で正確なポジション、そしてエクスポージャーの理解により有効でアジャイル型の意思決定を可能とします。

一貫した統合型のワークフロー

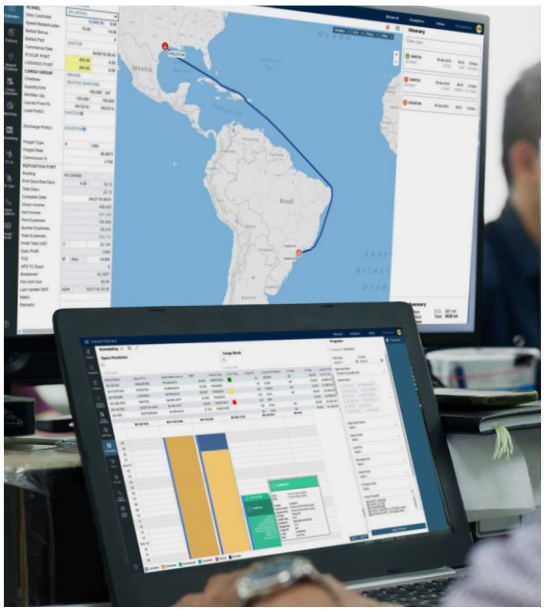
VIPは設計により統合されており、取得された情報や特定ワークフローで生成された情報を速やか、かつ円滑にプラットフォーム全体に行き渡らせます。その結果、貴社は燃料の補油要求、消費、調達、取引、スワップなどの観点において十分に情報が与えられ、アクセスできるようになります。

データに基づく交渉

パフォーマンスから過去の燃料調達履歴、ベンダーやコスト情報など燃料調達デスクが関与する全ての交渉に必要な情報を確実に手にするために、統合型ワークフロー、リアルタイムなマーケットデータ連携、そして標準化されたデータがVIP内に集められ、自信を伴うビジネスの推進、重要な燃料管理資産を効率的かつ効果的に管理が可能となります。

燃料の未来へのインターフェース

IMO 2030のような規制への標準対応、あらゆる種類の燃料管理やより持続可能な意思決定を可能とする機能により、VIPは燃料の未来に対して対応しています。持続可能性の計画が進展し、新たな燃料の種類が現れたように、VIPの継続的なアップデートは次に来るものへ常に準備し、そのすべてをレポートするツールを持つことを可能にします。



パートナー紹介

Bunker Planner

BunkerPlanningインテグレーションのためのVIPとBunkerMetricの連携

Veson Platform Partnerにおけるプラットフォームパートナーとして BunkerMetricのBunkerPlanningインテグレーションは、Veson及びBunkerMetric利用のVIPユーザーに対してデータの連続性を維持し、かつ非常に貴重な燃料調達最適化ツールのアクセスを可能とします。本船の消費パターンや予定航路、最新の世界的な燃料価格やVIPワークフロー上にある全ての有用なデータに基づき、最適な燃料数量や油種に対して調整された最適な推奨値を受け取ることができます。

変動性の高い市場や多様な燃料油種、そして進化する持続可能性の目標を管理する燃料管理アプローチを海運ビジネス組織が適用するにつれて、成功に導くプラットフォームやパートナーを選ぶことが重要です。

海運ビジネスにおける貴社の燃料管理を高次化するために我々の深い専門性と動的なツールを利用する準備が整っていますか？

デモリクエスト →

VESON NAUTICAL

Boston +1.617.723.2727
Singapore +65.6225.4881
London +44.20.3397.0102
Tokyo +81(0)3. 4360. 8217
Houston +1.617.723.2727

www.veson.com
| Copyright © 2021 Veson Nautical. All rights reserved.